

概要

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、国民・民間企業における消費・投資マインドの向上、海外から日本への関心の高まりなどが予想されることから、この機会を最大限に活用し、スポーツ産業を活性化させるため、有識者による議論を通じて、2020年以降も展望した我が国スポーツビジネスにおける戦略的な取組を進めるための政策方針の策定を目的とする。

これまでの経過（H28年2月～）

- 第1回 2月2日
【テーマ：我が国のスポーツ産業活性化】
- 第2回 2月24日
【テーマ：組織マネジメントと人材養成】
- 第3回 3月9日
【テーマ：スタジアム・アリーナ】
- 第4回 3月16日
【テーマ：スポーツ×テクノロジー】
- 第5回 4月5日
【テーマ：スポーツ×（地域・人材・健康）】
- 第6回 5月20日
【テーマ：中間とりまとめ（素案）】

委員名簿

- | | |
|----------|------------|
| ・斎藤 敏一 | ・長谷部 健 |
| ・ジム・スモール | ・土方 政雄 |
| ・高橋 義雄 | ・松崎 英吾 |
| ・田中ウルヴェ京 | ・間野 義之（座長） |
| ・次原 悦子 | ・三沢 英生 |
| ・中野 秀光 | ・山本 一郎 |
| ・橋本 哲実 | |

計13名（50音順、敬称略）

平成28年6月 中間報告 公表

課題① スタジアム・アリーナの在り方

【方向性】

- ①収益モデルの確立（コストセンターからプロフィットセンターへ）
- ②スタジアム・アリーナを核とした街づくり（スマート・ベニュー構想）の実現
- ③民間資金の活用・公民連携の促進（PPP/PFIの活用等）

【今後の具体的な取り組み】

- ①「スタジアム・アリーナ推進 官民連携協議会」（仮称）の開催
- ②施設の整備に向けたガイドラインの策定
- ③資金調達手法の充実
- ④新国立競技場の2020年東京大会後の運営管理



課題② スポーツコンテンツホルダーの経営力の強化、新ビジネス創出の促進

【方向性】

- ①高校・大学スポーツの資源の活用
- ②アマチュアスポーツ大会等へのビジネス手法の積極的導入等
- ③競技価値の最大化に向けた球団・リーグ運営の取組の充実
- ④地域特性、種目に応じた地域密着型ビジネスモデルの確立・普及
- ⑤グローバル化の推進（スポーツコンテンツ、球団経営等の海外展開等）

【今後の具体的な取り組み】

- ①中央競技団体（NF）の収益力強化とガバナンス体制の充実
- ②大学スポーツの振興に関する検討会議の開催
- ③地域におけるプロチームと関係者による新事業の開拓



出典：第2回スポーツ未来開拓会議
根岸氏資料より引用

スポーツ産業の成長産業化に向けて

基本的な考え方

- 全ての国民のライフスタイルを豊かにするスポーツ産業へ
 - ・「モノ」から「コト」（カスタマー・エクスペリエンス）へ
- 「負担（コストセンター）」から「収益（プロフィットセンター）」へ
 - ・「体育」から「スポーツ」へ
 - ・ポスト2020年を見据えた、スポーツで稼ぎその収益をスポーツへ再投資する
自立的好循環の形成
- スポーツ産業の潜在成長力の顕在化、我が国基幹産業化へ
 - ・我が国GDP600兆円の実現
 - ・スポーツをコアとして周辺産業に波及効果を生む、新スポーツ産業の創出
- スポーツを通じて社会を豊かにし、子供たちの夢を形にするビジョンを提示

日本再興戦略2016におけるKPI（数値目標）

- スポーツ市場規模の拡大
5.5兆円（2015）→15兆円（2025）
- スポーツ実施率の向上
40.4%（2015）→65%（2021）

課題③ スポーツ人材の育成・活用

【方向性】

- ①専門的・実践的な育成及びマッチング機能を有するプラットフォームの構築
- ②学生への教育の充実
- ③アスリートの引退後のキャリアの選択肢の充実とアイデンティティ支援

【今後の具体的な取り組み】

- ①スポーツ経営人材プラットフォーム協議会（仮称）の開催
- ②デュアルキャリアプログラムの実施・普及と引退時の支援
- ③各団体のコンソーシアム設立によるアスリートサポートシステムの構築
- ④アスリートに対するコンプライアンス教育

www.ritsumei.jp (参考：J.LEAGUE HUMAN CAPITAL)



課題④ 他産業との融合による新たなビジネスの創出

【方向性】

- ①スポーツ産業のエコシステムの構築
- ②スポーツを「みる」「する」楽しみを拡張
- ③ウェアラブル機器の導入によるスポーツを通じた健康ビジネスの拡大
- ④スポーツデータの分析・活用
- ⑤様々な媒体の活用を前提としたスポーツメディアビジネスの拡大

【今後の具体的な取り組み】

- ①スポーツツーリズムの拡充
- ②他産業とのビジネスマッチング
- ③データアナリストカンファレンス（仮）の開催
- ④スポーツメディア協議会（仮称）の開催



課題⑤ スポーツ参加人口の拡大

【方向性】

- ①子供の頃からスポーツを楽しむことができる環境の整備
- ②ビジネスパーソン、高齢者等のスポーツ参加支援
- ③障害者のスポーツ活動
- ④スポーツを通じたヘルスケア産業の振興
- ⑤官民連携した施策の推進

【今後の具体的な取り組み】

- ①スポーツ医・科学等の知見に基づく運動プログラムの開発と展開
- ②参加しやすい新しいスポーツの開発と普及
- ③職域における運動習慣の構築
- ④運動部活動指導の工夫・改善支援
- ⑤障害者スポーツの普及、用具の開発と整備支援
- ⑥スポーツツーリズムの拡充（再掲）

